

# 父へ母への想い



5月12日は母の日、  
6月16日は父の日。  
ご両親のことについて、皆さんの中にも  
さまざまな想いがあることでしょう。  
今回西だよりでは、西地域にお住まいの  
4人の方々に、ご両親への想いについて  
お寄せいただきました。



## 母の日、父の日の思い出

和田 詩織さん（関沢2）

小学生のころ、母の日にプレゼントをあげるのを忘れ、父の日用に用意していた小さな感謝状を母の日用に書き直してプレゼントしたことを覚えている。

そのかわり、父の日には小さなポーチをプレゼントした。かばんの中に入れておいた日焼け止めクリームが大量にあふれて大パニックになっていたの、小物を入れて

おくポーチをあげたのだ。気に入ってくれたのか、父のかばんにはいつもそのポーチが入っている。

面と向かってはすかしくて言えないけど、父と母にはたくさん感謝している。

今年から大学生になり、栄養のことを勉強するので、健康的な食事をたくさん作ってあげようと思う。

これからもよろしくね。



父と私

## 人生山あり谷あり

萩原 弘さん（大字鶴馬）

私の父は明治27年生まれ。母は明治33年、西暦ではちょうど1900年生まれ。没後大分経つが西暦で数えると今いけば幾つだ、なんて分かりやすい。

まず父のことだが、父は大正のはじめに鶴瀬で起業し、当時はシンガーミシンを使い「足袋」などを作って結構繁盛したようだった。時には製品に模様の入った布地を縫いこみ、おしゃれなものをつくり、喜ばれたりしたこともあったみたい。が、第二次大戦が商売の転換期になり、特に戦後の履物は靴に変わり、足袋の需要はほぼ皆無。こんなふうに時の流れが生活様式をすっかり変えてしまった。

戦中戦後は食糧事情が厳しい状況になり、母は食料の足しになるよう夏には沢山の野菜を乾燥して冬に備えたり、僕らが小川でとってきた小魚や、たにしを焼いてしょうゆ味で食べさせてくれたり、一生懸命工夫していた。

激動の昭和を乗り切り、五人の子どもたちを育ててくれた。いろいろあったが、ふたりとも立派な人生だったと思う。そして感謝をこめて今、みんな元気に過ごしていることを報告します。



晩年の両親。父は86歳没、母は96歳没

## 父と母からの教え

堀口 正仁さん（大字鶴馬）

私の父は、農業と警察官しか知らず、55歳で世を去りましたが、母ともども、いろいろなことを教えてくれました。

それは、一にも二にも相手を「思う」ことでした。

今の私の生き方に大きな影響を与えてくれていると思ひ両親のお陰だと思っています。

両親が折に触れ、諭してくれたのは、「思えば、思われる」という言葉でした。

人に思われたければ、まず自分が相手を思いなさい。

自分が思っているのに、思ってくれないと思っはいけない、自分の思いが足りないと思いなさい。



平成17年（2005年）に83歳で亡くなった母

もう一つは、自分をとりまく人々にしていただいたことには、どのようなことでも、してくれて当たり前と思わず、感謝を込めて「ありがとう」と言いなさい。

いたって当然のことですが、「相手に対する礼を失わないこと」という教えを受け、まだまだ未熟ですが、それが私が両親から受け継いだ大きな財産だと思っています。

母の日、父の日を迎えるたびに、この両親の下に生まれて良かったなと思ひ、今は亡き父母に感謝しています。

## 100歳の母

土屋 美枝子さん（鶴瀬西2）

私は男1人女4人兄妹の長女です。母の実家は東京の練馬です。春・夏・冬休みには祖父母・従兄妹に会いに行くのが楽しみでした。私の住まいは板橋にありました。庭には鶏、犬、猫もいました。

調理好きな父は、タクアン、白菜、ぬか漬けも手がけ、朝食には生みたて玉子、ぬか漬け、母の煮たうすら豆、おひつから温かいご飯、味噌汁。丸いちゃぶ台をかこみ正座をし、皆で楽しい食事でした。が、箸や御飯一粒にも厳しく、帰宅時間にも厳しいものでした。

洗濯機のない時代、大きなたらいに洗濯板でゴシゴシ布団カバーやシーツ、糊付けし、長い竿に干すのです。小柄な母は高い所にまるで軽業のようにヒョイと上げるのです。それは見事なものでした。

父はスポーツマンでした。野球・水泳・剣道は七段、試合を何度か見に行きました。静まり返った会場に「ピシ、ピシ」と竹刀の音が響き「面」という大きな声、どきどきして応援しました。

父は好物のお酒に負けました。ガンを発病し、入院7か月、娘4人の結婚も、孫の顔も見ることなく、60の人生を閉じました。

鶴瀬に転居し、父亡き母の人生、人知れぬ苦労もあったことでしょう。母に聞くと、運命の流れのまま逆らわず、今日まできたと他人事のように話します。

先日、100歳の誕生日を迎え皆で祝いました。

これからも父の分まで元気でと願っております。



上：昭和37年（1962年）5月撮影。一番左が父、赤ちゃんを抱いているのが母、その右隣でしゃがんでいる女性が私。

下：平成31年（2019年）4月撮影。最前列中央が母、一番左が私。

